

クラス番号	648	担当教員名	新美 晃代
テーマ	学童保育所における生活支援から、子どもの発達について考える		
ゼミナール概要			
キーワード： 子ども・学童保育・子育て・子育て・学童期の発達課題・自立支援と保護・保護者への関わり			
目標：①学生自身が「自立」についての価値観を確立する ②学生自身が「自信を持つ」ということを実感し、人生の課題に挑戦することに喜びを見出す事ができる			
内容： 1)「考える」 ①「普通」とは何かを考える ②「自己」と「他者」の区別を理解する ③自己責任と保護について考える ④健康な子どもを支援するための視点・考察方法について学ぶ ⑤子どもを取り巻く環境について考える 2)「やってみる」 ①対象者（対象地域）の問題は何かを「考える」 ②問題・課題の抽出 ③解決策を考え対策を計画 ④計画実践 ⑤評価 ⑥再計画・実践・評価			
授業計画： ゼミ前半は、感性を磨き、五感をフル活用し「考える力」を目覚めさせるような教室内でのワークが中心になります。後半では私の勤務する NPO 法人菜の花で、地域（主に学童期の子ども）の課題・問題を見つけるために直接子どもや保護者と関わっていただき、問題・課題を抽出し、実際に問題解決のための企画・実践をします。それらを経験することで「責任を持って成し遂げる」ことの達成感を味わってもらいます。			
担当教員からのメッセージ			
私は現在 NPO 法人菜の花（半田市）で学童保育指導員を主な仕事にしています。看護大学を出たあと看護師・保健師として、病院や保健センター、企業の診療所など様々な職場で仕事をしてきました。その中で、身体的には「健康」なのに病気に固執する人、自分の抱える問題を直視できない人など、「自立していない大人」の多さに驚き、過度の「依存」が様々な病気を作り出すことや治療の妨げになっていることを知りました。それらは医療の関わりだけではなんとも難しく、そもそも「自立・自律した大人」を育てる教育がなされていない事が問題と感じ今の職業を選ぶに至りました。 福祉や医療を生業とする方は「～して差し上げる」のが大好きな方が多く感じます。「過度の支援」は「依存」を生み、支援者・要支援者両者が疲弊します。ではどうすればいいの？…それを 1 年かけてじっくりと一緒に考えていきたいと思っています。 「考えろと言われても、どう考えたらいいか分からない」「何がしたいか分からない」方におススメのゼミです。			